

□ 随 想 □

# 神戸一五年

小島輝正

神戸に住んで一五年になる。長いといえば長く短いといえ短いような、いささか中途半端な年月である。それでも、一五年といえ私の生涯の三分の一に当たり、生まれて育ったお江戸を別にすれば、これまでに一番長く住んだ町である。ばかりでなく、これから先も当分、いやおそらく一生を神戸で暮らすことになりそうだから、その分を見込んで私にも神戸っ子を称する資格がいささかはあるに思える。

神戸の大学への勤務がきまって始めて神戸の土地を踏んだのは、昭和二五年の初夏の一日であった。よく晴れた日で、阪急六甲駅の山側の改札を出た私は、正面にひろがるパステル・ブルーの空と、濃緑の山なみとを見上げ、背後に横たわる紺青の海をながめて、まるで南国へでも来たような

鮮烈な印象をうけたものである。戦後の東京での生活に疲れ、傷ついていた三〇才の私の、その時の解放感と心のはずみを、今でも私はありありと思っておこすことができる。

それから一五年、気がついてみると、その山なみの緑も海の紺も、いつか見馴れ、なずんで、あらためてふり返ることも少なくなっている。初心を失うべからずということばは、人間がいかに初心を失いやすいかをさとしたことであろう。自然は変わらないのに、人の心がうつろい、磨滅するのである。時にそれを思って私の心は悔いにみたされることがある。

それでも、ここ数年、阪急岡本から上がった山の中腹のアパートに住んで、駅まで二〇分足らずの坂道を、時にはゆっくりとした気分で歩いており

ることがある。そして、季節に應じて粧いをかえ、微妙に色どりをかえる山の木々と海のひろがりをはなめるともなくながめているうちに、ふと心のうつばりが落ちたような瞬間が私に訪れる。そして、しばらく足をとめて、その自然の美しさにつくづく見とれるのである。そんなとき、その放心のなから、忘れかかっている初心がまざまざとよみがえる。そして、この、山と海のある町に住んでいる自分の幸運が、ほとんど誇りのように私の心にひろがる。

東京はもちろん、大阪であれ京都であれ名古屋であれ、およそ都会と名のつく日本の町で、山と海の美しさを、これほど一時に、身近に味うことのできることはない。私は、二〇台のはじめに一年足らずの間だが横浜に住んで、港町の雰囲気のようなものにふれたことがある。しかし、同じ港湾都市でも、横浜には、潮の香りこそあるが、神戸の、眼にしみる山の緑はない。

先日も東京にいった。年に何回かは行くが、そのたびに様子が変わって、学生時代遊びなれた新宿や渋谷のターミナルなどは、とんと不案内なお上りさん同様である。ハイウエーが走り、地下鉄は網の目をひろげ、どこへいくにも便利にはなつたが、山の緑、海の青はおろか、およそ自然を欠如したコンクリートと鉄筋の町である。昔は悠々とキャッチボールや羽根つきのできた、私の家の前の道路も、白ナンバーが我がもの顔に走り廻って味もそっけないアスファルト道になってしまった。我が郷国ながら、神戸に住みなれた私には到底二度と住む気になれないメカニズムの町であ

る。おまけに、人の心はささくれ立ち、油断もすきもない巾着切みたいな眼つきのが巷に氾濫して、それぞれが他国のことばをしゃべっているところはまさしくバベルの塔である。私にとつての懐しい東京はすでない。関西に戻って、電車の窓から六甲の山なみが見えはじめると私の心はやわらぐ。

だが、こんなことをいう私でも、身近に青い灯赤い灯の全くない自然の真只中におかれたら、そこは生まれ落ちてからの都会もの、おそらく無聊と人恋しさに耐えかねることであろう。神戸の得がたいよさは、自然と人工とが至近距離に併存していることである。三宮、元町の盛り場から十数分で、山の緑にかこまれて下界より二、三度は気温の低い山腹まで帰りつける。そんなところは神戸以外に考えられないだろう。自然と人工の双方を気分に応じて自由にエンジョイできるのがこの町のよいところ、などといったら生粋の神戸っ子は機嫌を悪くするだろうか。

そんなことはないはずである。私のように、都会育ちで、それだからこそなお海や山への満たされぬ郷愁をもちつづけている人間、そのくせ都会を捨てきれぬ人間、ちょっとしたハイマートロスの流れ者、そういう人間を、よそ者扱いにせずにくるみこんでくれる町が神戸であり、そういう性格が神戸っ子の神戸っ子たる所以であろうと私は思っているからだ。そして、その点でも、私は、自分が神戸っ子のはしくれたりうる資格をそなえていると信じているのである。

(神戸大学教授)



春のチャームポイント  
春のおしゃれめがね



神戸眼鏡院

元町3丁目 ☎ 3112 ☎ 1443

☎ 0551 (貿易部)



PELO TIES  
WEST GERMANY

ネクタイの

元町バザー

神戸×元町 TEL ☎ 1401



きものと細貨



東京 神戸

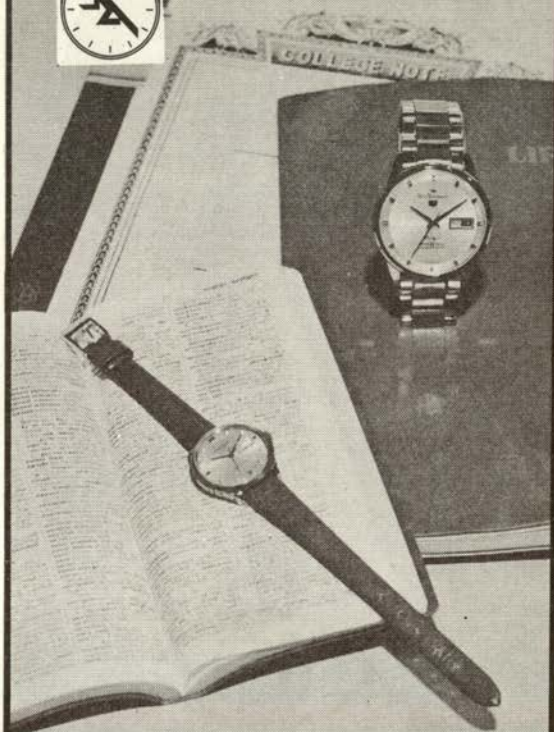
新橋店 / TEL (57) 5151 (代)	東西店 / TEL (33) 0836 (代)
銀座店 / TEL (57) 0807	

小松ストア地階

おんがら屋



ご入学  
ご卒業のお祝いに



セイコー特約店



美田時計店

神戸・元町3丁目  
TEL 33-1798・8798



□ 神戸っ子放談 □

# ファミリーアーな神戸

小泉 徳一 (小泉製麻KK社長)

今月の神戸っ子放談は、ことし、新しく神戸経済同友会の代表幹事に就任された小泉徳一氏に、ご登場をお願いした。小泉氏は、スポーツマンを自負されるだけあって、長身、立派な体格の持主である。また、その悠々たる話しぶりのなかに、氏の落ち着いた大陸的な風格がうかがえるように思われた。

阪神新在家駅近くの小泉製麻株式会社の建物は、赤レ

ンガ造りのいかにも古風な建物で、壁いちめん蔦が張りめぐらされている。こういふところにも、同社の伝統と年輪が感じられる。

神戸生れの神戸育ち

「六甲道駅(国鉄)のすぐ近くに、神戸製鋼所の寮が

あるでしょう。大へん大きな家ですが、これはもと、鳥さんとという人が、明治の終り頃に建てた家で、まあ、鳥さんといえは有名な大金持でしたが、その鳥さんが当時ご自分の土地に、いくつかの借家をつくられたんですねそれで、私の父が最初にその借家にはいったわけで、私はそこで生れたんです。小学校は甲南小学校でした。それから甲南高校を出てから東大の経済学部にはいりました。私自身は、だから、神戸生れの神戸育ちといえますね。もともと、私の家は代々滋賀県の出で、小泉という姓は滋賀県には割りに多くありますよ。私の聞いたところでは、どうやら先祖は織田信長に追われて、滋賀に落ちのびたらしいんですがね。(笑)

### 明治政府の殖産工業政策によって 現在の会社が生れた

——会社が創立されたのは、いつ頃のことでしょうか。  
「明治23年ですね。実は、当時私の祖父——小泉新助という名前でしたが——が京都で絹物問屋をやっておりましてね。ところが、ご承知のように、その頃は日本の産業革命の時代で、漸く日本の工業化ということが本格的に始められて、明治政府は、殖産工業政策というのを熱心に推進したわけですよ。しかも、京都府知事の中井さんという方と祖父が個人的に親交があったもので、ひとつやってみないかということで、製麻の仕事をするめられたんですね。それがそもそもの発端です。」

——当時は日本米が輸出されていて、——これは糊の材料になったんですが——それを俵で送ることは許されないのでですね。つまり、どうしても麻袋が必要だったわけですよ。そういう時代的な要請が、動機になって現在の仕事が始まったということですね。

——当時、イギリスのサミエル商会というのがありまして、横浜と神戸に店を持っていましたが、そこが工場を操業するに当って、機械購入などの面でいろいろ世話を

してくれました。延払いにしてくれたりしてね。まあ、その頃はイギリスとの交流は非常に盛んでして、現在の会社の事務所もイギリスふうの造りになっていますし、ドアのノブなど明治23年にできたそのままのものを今も使っているんですよ。全然これないですね。今となっては、天然記念物的とっていいでしょう。(笑) 工場の班長の服装にしても、写真でみると、全くのスコットランド調でしてね、イギリスの労働者の着るような服装をしていますよ。

——もともと、その後米の輸出ということもしなくなりましてけれどね、日清戦争を契機として、さらに工業が盛んになっていきましたから、そういう状況を考えて、やがて、麻布(ヘシアンクロス)を作るようになったわけですよ。」

——小泉社長は、そうすると何代目になるわけですか。  
「さあ、よく覚えませぬね。(笑) たぶん、創業以来では7代目くらいではないでしょうかね。創業当時は小泉合名会社とっておりましたが、株式会社になったのが大正7年です。父の良助が社長になりました、それからだどちようど私は4代目ですね。もともと私は、東大を出てから、しばらくの間は呉羽紡績でお世話になりました。伊藤忠兵衛さんと父が同郷で、小学校の同級生だったという関係がありまして、それで呉羽に呼んでいたわけですが、浜松の浜名工場に2年くらいいて、それから本社にはいり、秘書課につとめておりました。その後応召でやめ、それから小泉製麻に来たわけですよ。」

### 朝鮮戦争で息を吹きかえす

——「戦争で工場が焼けなかったのは、本当に幸いでした。自警団の人々が消してくれましたので助かったわけですが、しかし、戦後しばらくは、大へん辛い思いを味わいましたよ。というのは、工場は残ったけれども、原料は焼けてしまっていますし、外国から輸入もできないといううわ



明治23年創業当時の記念写真  
 前中央 小泉新助  
 後列左から 小泉助次郎、塚原昌吉  
 左右 サミエル商会代表者

けで、ずいぶん弱りましたね。その上、進駐軍がやって来て、女子寮を明け渡せというんですね。なにしろ、当時は進駐軍恐いムードでしたから、反抗もできない。それで、女子は殆んど家に帰らせましたよ。それで、部屋の畳とか鏡台など、2昼夜のうちに全部外へ出せという命令がありましたね。全部で約三百部屋あり、1部屋が20畳平均ですからね。これは大へんだぞと思いましたが、まあ、警官の応援をうけたりして、2晩徹夜してやっと全部運び出しました。だから、戦後しばらくは進駐軍と同居していたというわけですよ。それでまあ、ああしろ、こうしてくれというような文句がたくさん出て来て、本業よりも、そっちの応対の方が忙しかつたくらいですよ。事故でも起らなければいざと案じていたのですが、進駐軍の面々が行儀がよかったですので、大した事故も起らず幸いでした。

そうこうしているうちに、昭和24年頃からポツポツ麻が入るようになりましてね。朝鮮戦争が始まって、漸く息を吹き返してきたんです。というのは、戦争ですから土のうがたくさんいるわけですね。どんどん使うので、

いくら作っても追いつかないくらい需要がふえました。それで、まあだいぶ儲かりましたですね。

麻の用途としてはたくさんあるんですが、戦前は小包ひも、荷造りひものようなものから、ケーブル電線、導火線、ワイヤーロープ等の工業用に多く使われていましたね。最近では、カーペット、屋根の防水のような建築、室内装飾などの面でも需要が増大してきたように思います。

### 神戸はファミリーな町

「経済同友会の代表幹事になったといっても、そう際だった抱負は私にはないのですよ。私には神戸の市政、財界などに対してそれほど強い不平不満はないんです。被害をこうむったという経験がありませんからね。従ってそう積極的な意見というものもないわけですよ。私は神戸に満足しておりますね。町全体が非常に明るくて開放的ですし、例えば外人などでも花隈や三宮の方が、大阪よりもなんとファミリーな（親しみのもてる）雰囲気があった好きだとはつきりいっていますね。東京や大阪は利害関係も厳しいですし、何ととっても速度がはやいですわ。（笑）その点神戸はのんびりしていますね私も比較的のんびりしている方で、よく人から中国的とか大陸的とかいわれるんですけどね。事実私は中国人が好きです。戦時中満州にいたことがあり、わりに中国人と接触する機会も多かったのですが、ともかく目先のことにこだわらない、物の見方がいけば非常にロンガンですね。（笑）それだけ賢いといえるのでしよう。私の趣味ですか？ 戸外で体を動かして遊ぶのが好きですね。マージャン、囲碁、将棋のような室内遊戯は好みません。ゴルフは好きです。それから満州で馬に乗って日本人町まで酒を飲みに行ったなんてこともあり、高級馬術はダメですけど、実用馬術はわりに得意ですね」

（文責・編集部）

## 経済ポケット ジャーナル



### ビジョンづくり

神戸商工会議所はいま小野企画委員（日本香料薬品社長）が中心になって新しいビジョンづくりをしている。その内容は①中期経済計画に対応した神戸の経済計画②瀬戸内経済圏を中心とした西日本経済圏づくり。まず①は神戸にはマツチ、ゴムなど明治期に発展した産業と近代的重工業とがあるが、その中間的な工業がない。神戸が大きく飛躍するためにはなにか新しい工業を導入する必要があるのではないかという産業構造の問題を追究しようというわけ。②はかつて同所が開いた瀬戸内経済会議や船上会議を発展させ、西日本経済圏をつくるにはどうしたらいいかという問題。いずれも非常に大きな問題だが、小野委員長は「米花神大教授、鎌倉京大助教授を中心に学界の能力を最高度利用するのだから、できないことはない」と大張り切り。見事な答案を期待したい。

### 日銀支店長に井上氏

広瀬日銀神戸支店長が本店の合理化部長に二月十日付で栄転、後任には井上大阪支店次長が赴任した。広瀬氏は明朗な人物で、神戸経済界の代表選手づくりを側面的に推進、浅田会頭実現に一助のあった人物。きさくに話をし、ある意味で日銀カラーを脱していた異色の人材で、神戸財界でもっと意見を聞きたかったほど。

広瀬氏は「神戸が貿易港であるのに地盤沈下、斜陽の市といわれるのは残念。もっと神戸は港町らしく活気ある町になる必要がある。そのためには経済界がもっと活発にならねばならない」とつねづね言っていた。後任の井上新支店長にも神戸のために大いに活躍を期待したい。

また神戸経済同友会の四月からの新代表幹事に榎並阪東調帯ゴム社長、小泉・小泉製麻社長が選ばれた。現代代表幹事の、小野日本香料薬品社長は三月で退任、会

議所の仕事に専念する。小泉氏は生っ粋の神戸っ子だが、経済団体の仕事に従事するのはこんどが初めて。「私は田舎士なので、神戸の問題もよく知りません」と低姿勢ながらも、「これから皆さんにいろいろ教えてもらって代表幹事の仕事も果たし、自分自身の勉強もしたい」と意欲的。東大では有沢教授に学んだが、フレッシュな感覚で、神戸財界に新風を期待したい。

### 目的公債論

#### 浅田氏提唱

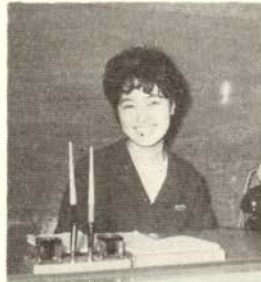
浅田神戸商工会議所会頭は最近の経済危機は昭和初年のそれに匹敵すると警告していたが、二月に香港で銀行の取り付け騒ぎがあるなど内外とも経済は多事多難。財源も豊かでないとおって浅田会頭はこのほど「公共投資で不況を救え」と題するパンフレットを発行、目的公債の発行を提唱

している。その要旨は、「昭和初年の恐慌にも似た厳しい経済情勢になってきた。いまこそわが国に不足する社会資本を充実するために公共投資をし、経済危機を救うべきだ。財源は道路、港湾、治山治水に使用するという明確な目的を持った目的公債を発行して調達すべきだ」というもので、宇佐美日銀総裁も賛意を表している。

### 神戸商工会議所 市・議会幹部と初会合

神戸商工会議所は、経済界の意向を市政に反映すべく、3月1日オリエンタルホテルで神戸市・議会の幹部と約2時間にわたって会合を開いた。これは、初めての試みで、背山開発、万国博、明石架橋、港湾整備等神戸の当面する諸問題について、今後は政経の協力関係を密接にすることで、相互の意見の一致をみた。

### \*KOBEオフィスレディ\*



磯田美代子さん（19才）

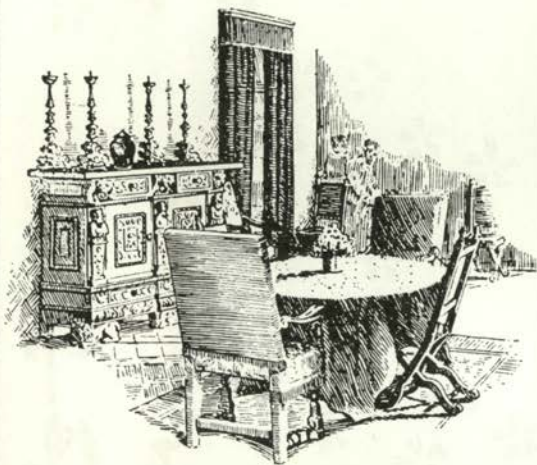
日本毛織KKK総務課勤務

湊川高校を卒業して入社1年。

「受付の感じのよしあしは会社に対する第一印象を左右する大切な仕事と思っています。と言われるだけあって、外部の人の評判もなかなかよいか。手芸スポーツに興味をもち、果物がお好き。いつも微笑を忘れないお嬢さん。」



家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { ③9 3 7 3 7  
3 7 3 9 }



たのしい  
春のリズムに乗って  
踊るお菓子のトリオ

ゴ ー フ ル  
マロン グ ラ ッ セ  
コーベ・ピア

神戸にそだって 70年

神戸  風月堂

元町3丁目 TEL ③92412~5

花の季節の  
お出かけには  
はきごこちよい  
まる喜の  
ぞうりで  
より美しく  
より清楚に



趣味の履物

まる喜

神戸三宮センター街 電話 ③ 4 4 7 8



呉井保織

みよこや

電話神戸③三三八八〜九番  
大阪店 阪神百貨店三階  
電話 大阪 ⑧ 五五四八番  
姫路店 やまとやしき百貨店三階  
電話 姫路 ② 一一二二番  
衣裳部 三宮町三丁目柳筋  
電話 ③ 五一六五番

るぼるたーじゅ・コウベ

⑧

# 海のパトロール

松原新一 撮影／緒方しげを

港。小さな船、大きな船、日本の船、外国の船がいりまじっている港。その向うに広がる海。一見、おだやかに見える港と海の周辺だが、そこでは毎日のように事件や事故が起こる。陸上に犯罪が生れるのと同じように、水上にも犯罪がある。殺人、密輸、盗難……こうした事件や事故に、鋭い目を光らせている人々がいる。水上警

察署の面々である。とりわけ、海上警ら隊の面々がおこなっている海のパトロールは、水上の事故や犯罪の防止取締りを目指しており、みなと町神戸に独得のものといつてよいだろう。犯罪のない港づくりの、いわばそれは最前衛の位置にある。むろん、港から完全に犯罪の消え去る日はありえないことかもしれない。だが、彼らの続けている日夜を分かつた

ぬ努力は尊い。今月は、海上パトロールの動きを追ってみようと思う。

◇ ◇

「どこへ行くんや」「お風呂」「気をつけて行かなあかんで」  
水上生活者とのやりとりである。

2月×日、午後1時。警備艇、きくすい<sup>きくすい</sup>に同乗、海上警らに向かう。乗りこんだのは、船長、機関長、警察官2人、職員2人に、写真の緒方氏と筆者の以上8人。常時1、2隻の警備艇が港域線内をパトロール



しているという。私たちの乗った、きくすい<sup>1</sup>は、昨年10月につくられた最新型で、速力16ノット。現在、水上署にはこの種の警備艇が、全部で7隻あり、なかで、あわじ<sup>2</sup>が26トンで最も大きく、他は11トン、16、7ノットクラスの船である。

船室は、天井に頭がつかえそうなほど狭く小さい。床に石油ストーブがひとつ。ステンレスの流し台があり、窓際にはまっ黒のやかんやインスタントコーヒー<sup>3</sup>がころがっている。1人の警官が、たえず無線連絡をとっている。波が荒いので、船は大きく揺れる。甲板には、警官1人と職員が見張りに立っている。冬の海の風は、肌にしみいるようにつめたい。

10分ほどで葦合港湾にはいる。前方に小さな渡し船がみえた。きくすい<sup>1</sup>は速度を落としながら、徐々にその船に接近してゆく。櫓をこぐ男、女が3人、そして2才くらいの子が乗っている。水上生活者である。

「寒いおう」

警官のひとり、しゃがみこんで声をかけた。鷗が舞いおりてくる。

「うーん、寒いねえ」

子供を背負ったエプロン姿の女がこたえる。

「どこへ行くんか」

「おふろ」

「そうか。危いからな、気をつけていけよ」

「ああ」

海の上で大ごえのやりとりである。彼らをやりすごして、きくすい<sup>1</sup>は棧橋に着く。

このあたりは、一面ヨセヤの集落である。板壁に「ヨセヤ」と白ペンキで大書したバラックが、ここに密集しているのだ。そのうちの1軒に

「こんちわ」

警官ふたりは、つかつかとはいってゆく。隣家を訪ねるような気やすさだ。

「どないや。儲かるか」

土間に立って、これもふだんの挨拶のようだ。

「あかんなあ。この頃はあかんなあ」

障子の向うから、もの憂げなこえが返ってくる。あとで警官が、「実はこのオヤジは、この前に真ちゅうを時価10万円くらい盗んでつかまったことがある」と教えてくれた。裏へまわるとアタ小屋だった。何十匹というブタが狭い所にとじ込められたみたいに飼われている。

「ヨセヤも多角経営しないと食えないのでしょうな」と警官は苦笑する。

こういうヨセヤと顔つなぎになることが、海上警らの上で極めて重要なポイントになる。彼らと親しく口をきけるようになれば、聞き込み捜査が進まなくなるからだ。

葦合港湾を出て、今度は沖に停泊している外国船をたづねた。この訪船も、実は海上警ら隊の欠かせぬ任務なのである。タラップをのぼる。が、どうしたことかウオッチマン（警備人）がいない。「弱ったな」と警官（以下A氏とよぶ）がつぶやく。ふだんは、ウオッチマンが通訳もしてくれるのだという。甲板でウロウロしていると、そこへパイプをくわえた船員が近よってきた。

「ユー」

と言って、A氏は「どない言うたらえんかいな」口をもぐもぐさせた。

「ユー、どこの国？」

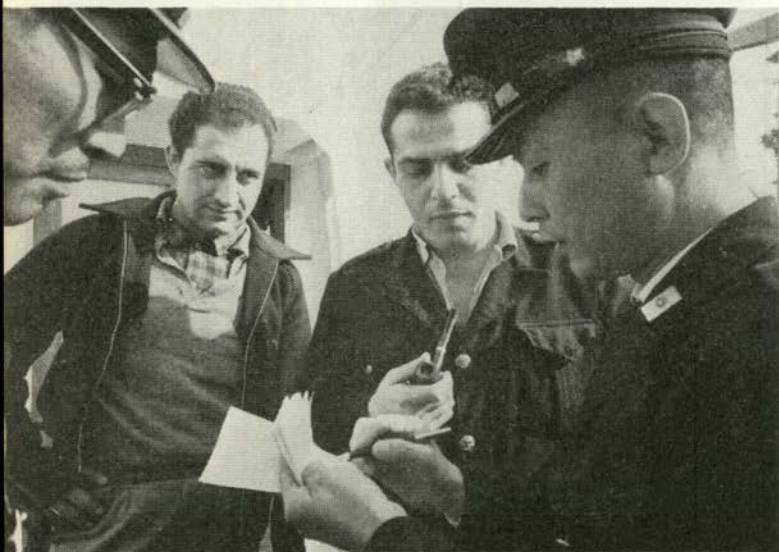
船員は、しばらく考えていたが、それでもどうやら通じたらしく「リベリア」と低い声で答えた。

「オー、リベリア？」

船員は、チーフ・オフィサーだといった。彼の部屋へ案内してもらった。彼はすぐ1枚の乗組員名簿をもってきてA氏に渡した。このクルーリストは、外国船がはいると必ず受けとることになっている。

「ユー、ブリーズ・プレセント・コーヒー？」

すさまじいA氏の英語だったが、チーフ・オフィサーはゆっくりと「オーケー、オーケー」とうなづきなが



写真上・不法もぐりの一味を調べる警ら隊。「許可証もったんのか」「あしたもらうんや」……

写真下・リベリア船を訪ね、船員にたどたどしい英語で話をきく警官。

ら、別室に消えた。コーヒーをこち走になり、しばらくの  
 歓談の後、私たちは船を離れて、再び「きくすい」にも  
 どった。船はこのまま水上署へ戻る。が、しばらく走っ  
 たところで、突然「きくすい」はサイレンを鳴らした。  
 船室にいた面々が、バタバタと甲板に走り出る。前方に  
 フルスピードで走り去ろうとしているチャッカー船（小  
 型発動機船）をみつけたのだ。ほぼ50メートルの距離。  
 けたたましくサイレンを鳴らしながら、「きくすい」は  
 チャッカー船を追った。至近距離に迫った所で、みんな  
 「生まれ、生まれんか」

両手で停止のジェスチャーを示しながら叫ぶ。女2人  
 に男が1人、無表情にこちらをみつめている。チャッカ  
 ー船は速度をゆるめたが、なかなか止まろうとしない。  
 「生まれんか、生まれんか」  
 1人の職員が必死で叫んでいる。ロープを投げる。引

き寄せたチャッカー船に警官が飛び乗る。ゴム服ですつ  
 ほりと全身をおおっている女。不法潜りの一味らしい。  
 「なにしとったんや」「のり取りですわ」「ふーん、寒い  
 やろ」「寒い、寒い」「ここはなにがはいとんのか」「警  
 官がとんとんと船底を足で叩く。「なんにもはいってへ  
 んで」男が答える。警官は、かまわず床板をあげる。箱  
 のような空洞になっているが、中からはらっぱ。パケツに  
 入れたノリが見えるだけだ。「許可証もったんのか」「あ  
 したもらうんや」「もぐるんやったらなあ、許可証もろ  
 てせなあかんで」「もろても今は寒いからはいれんわ」  
 「こんなことばっかりしとたら、子供が可哀そうやな  
 いか。そうやろ」「そやけどな、罰金ようけくろて何万  
 円も借金できとんのか」……

コンロに燃えている火が、なにかしら悲しく私の胸を  
 うった。



殺人や密輸のような凶悪犯罪を別とすれば、クズ鉄ドロヤ不法もぐりといった盗難は、神戸港で日常茶飯事のように起こっている。チャッカー船ができたのは、終戦直後のことであるが、これが盗みの武器になる。新川口附近を主として、現在30隻ほどのチャッカー船が広い港内で暴れまわっている。なかには、警備艇よりスピードの出るものもあるというから始末におえない。昭和31年頃からスクラップの値段が膨張し、そこに目をつけたアパッチの海賊的行為がいよいよひどくなった。ある警官は、「私らより彼らの方が港のことをよく知っていますよ」と苦笑する。どのハシケにどんな品物が積まれているかということも、彼らはちゃんと知りつくしているというのだ。昼の間に下調べをしておき、目をつけておいたハシケを夜の闇にまぎれて襲撃することもある。

外国船がスクラップを海に捨てる。あるいは、くず鉄輸入船が荷役中にくず鉄を海へ落したりすることがある。これを海底にもぐって拾い集めてきて、ヨセヤに売る。冬でもしよっちゅうもぐっているという。倉庫を荒らすものもある。例えば台風で倉庫が破壊された時など、船で乗りつけ、荷物を盗み去るのである。船内の現金が盗まれることもある。こうなると、国際信用にかかわる恐れもないわけではない。犯行を発見しても、裁判で有罪判決を下すことはむずかしいという。被害者が不明だったり、どこの船から盗んできたものが分らなかつたりするからだ。

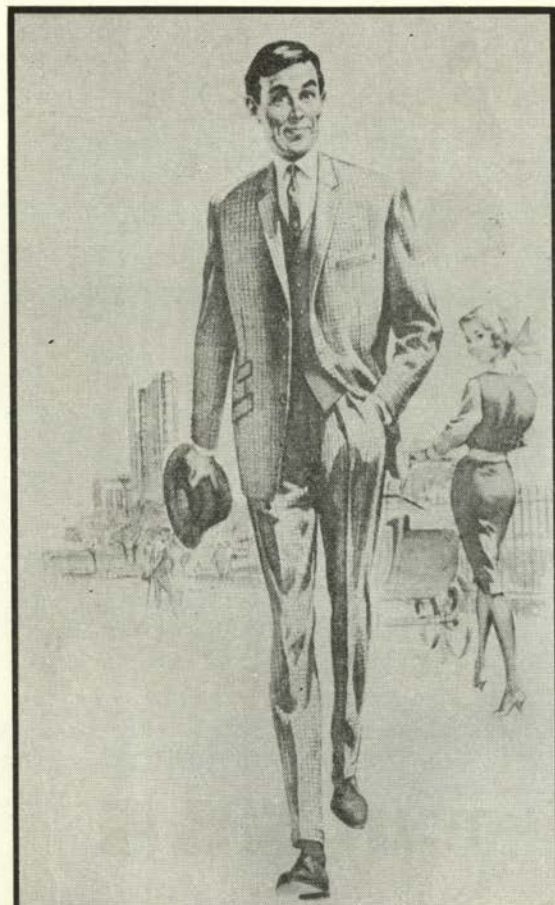
また、チャッカー船を発見しても、追跡中に危いものは海へ捨ててしまう。そして、その場所を覚えておいて夜になると引き返し、もぐって持ち返ってしまうのだ。なかには、ふくろに包みこみ、ひもをくくりつけて海へ捨てる。あとで、そのひもにひっかけて引き上げるわけである。それに、警備艇のエンジンの音を聞きつけるのが素早いから、追跡しても追いついた時には、証拠物品

がなにもなく、地だんだを踏む場合が多い。だから、警ら隊も彼らの裏をかくの苦心する。例えば、いつも東からまわるのを、突然西からまわったり、東だけをまわったり、あるいは張込みを先にしたりする。

昨年1年間の水上署犯罪発生件数は、千百三十五件のうち九百三十四件が窃盗である。神戸港内での盗難事件がいかに多いかがわかるであろう。「みなとぼうはん」(2月15日号)——神戸港防犯協会、神戸水上警察署発行——によれば、盗難は「ますます大形化、巧妙化の傾向」にあり、その特異な例として、「1、沖仲仕をふくむ、3人組の上屋倉庫破り事件。2、小型船を利用した輸入物質の多額盗難事件。3、保税倉庫対象の集団による多額窃盗事件」をあげている。

むろん、海上警ら隊はこのような盗難事件だけに目を注いでいるわけではない。神戸港が世界と日本を結びひとつの切点であるからには、例の訪船もそれなりに親善の実を挙げているといえよう。また、船の火事、沈没などの事故に際しては、人命救助に活躍するし、停泊している船で病人が出れば、陸の救急車に連絡し、直ちに警備艇が船にかけつける。水上生活者の子供が、誤まって海に落ちたのを助けることもある。夏の海水浴シーズンになると、沖に1日中警ら隊が待機する。ぶかぶかと海上でゆられていて楽だろうと、苦勞を知らぬ人がいうが、実はこれほど疲れることはないという。絶えざる注意が必要だし、暑さもさることながら、ゆられるというのが一番疲勞するそうだ。

梶尾署長は、「たしかに港の犯罪は多いですが、しかし、だんだん改善されていくと思います。悪名高かった弁天浜にも、最近福祉センターが出来て、ずいぶんよくなりました。私としては、港における犯罪防止を心がけると同時に、犯罪の生れる温床、環境をとり除いてゆきたい」という。今後の努力に期待したいものである。



高級紳士服

山名洋服店

神戸三宮生田筋 ㊦5797

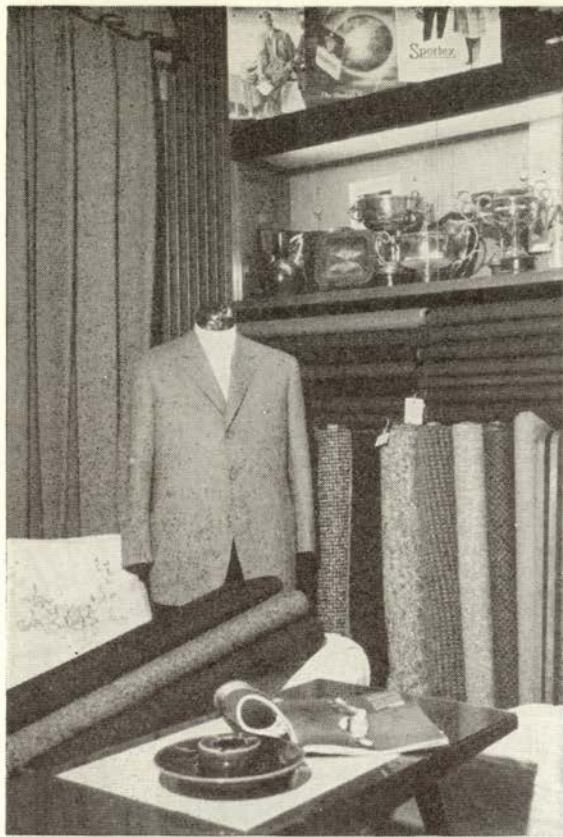
ボン・パリ

何から何まで  
渋好みのパリッ子

ボン・パリは洋菓子の  
本場フランスの味です  
ブドーと洋酒を上品に、  
ミックスした風味あるお  
菓子です

 **アルモンド**

本店 神戸市生田区元町通2の43  
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店  
本店TEL㊦2203



ご贈答にどうぞ

直輸入羅紗専門店・紳士服・婦人服

## シマキ洋服店

神戸店 生田神社東門筋 ☎37950・8055 ☎2597  
 大阪店 北区梅ヶ枝町92ヤノシゲビル1階 (362)9515



あなたと  
 パリを  
 結ぶ……



## 7年入野 ドンク

三宮センター街 TEL ☎5481~3  
 芦屋店・サンドウイッチパーラー  
 そごう店・須磨店・大阪店

「ドンクすずらん会」は楽しいドンクのお菓子の集いです。どなたでもご入会いただけます。めずらしいフランス・ケーキの作り方をお教えます。 会費500円



オリエンタルホテル・ア・ラ・カルト(その9)

## 空中から海底までの美食

☆グリルとブルニエ

あまり市民には知られていないようだが、オリエンタルホテルの地階には、山海の美食をあつめる味覚街や、よりぬきの豪華な売店が軒をならべていて、明るく楽しいオリエンタルアーケードをつくらせている。味覚の店としては「てんぶらとすし」の一宝があつたりバー・マーメイドもある。さらにコーヒショップでは朝食と喫茶をやっており、その入口には市内の食品店よりも安い値段で、腕を磨きあげたホテルのコックがつくる

パン・ケーキ・アップルパイ・スモークドサーモンなどを売っている。こんなに安くておいしいものを売りながら躍気になって、宣伝しないとところがいかに古いしにせを誇るホテルらしい。この地下街を通りぬけていちばん奥に行きつくとところに「グリルとブルニエ」がある。わが国でいちばん大きいといえるほどの、ゆつたりと二百人からの客席をもつ広さだ。はいり口のショーウィンドウに大きい鯛やせいご・鮭・鱒・あわびなど



トレトレの瀬戸内海の鮮魚が躍っている。その横で紺がすりの着物をきた志摩から来た娘さんがしきりに矢張り割っているが、マチスがこの上もなく好んで、しばしばモデルにしたことのある「レモンをそえた生鱈料理」がこの名物になっている。赤だすきをかけた娘さんの姿が、珍らしがる外人をいやがうえにもうれしがらせている。グリルとブルニエのムードは卓上のシャンデリアから出発していて、スポットライトのように卓上に落ちる強い光の下にいつも季節の花がたっている。花びらは光に透けて、鮮明で鋭く色彩感覚を刺戟する。「グリルとブルニエ」の名のように若雛や仔牛はもとより、カモから猪・鰻・あわびなど空から海底にいたるまでの季節料理をだしている。寒い間はブイヤーズの注文が多い。ネタがはいだけにバリよりもうまいというひとがいる。方々の料理学校の生徒さんが「ほんもの味を」というので団体で試食にやってきて眼で笑いながら舌鼓をうっている。すっかり日本人の好みのみこんだ副支配人のキシさんが流暢な日本語で、料理を注文しようとするお客の相談相手をつとめているのも八十三年の伝統をもつ老舗らしい。(カット/松岡寛一)



# 映画のこと 手当り次第

(14) 淀川長治

えらそうなことを言うみたいで気がひけるけれど、ニューヨークのジグフェルド劇場の舞台で「ボギイとベス」を見たり、または四十二丁目裏の劇場街で「王様と私」や「私とジュリエット」などのミュージカルを、舞台というそのじかの肌で見たときには、これはもう映画とはまるで違うミュージカルのこうふんを受けたものである

日生劇場に「ウエスト・サイド物語」が上演されたとき、なんや映画のほうなんほええかわからへん、と言った人もたくさんあったが、映画とあれとはまた質が違う。舞台はまた舞台の良さがあって、憎くらしいが、本当のことを白状すると、ミュージカルだとかオペラとかバレエは、もうこれは舞台でじかに見てこそ本物であってフィルム編集をとおし、フィルムのテンポと、そのアクセントを通過するとすでに別種のものとなる。それで「マイ・フェア・レディ」の映画など、それもえらく苦心して舞台を離れぬよう、その匂いを逃さぬよう、大汗をかいていた。

× ×  
 いうまでもなく映画のミュージカルは、トーカーと共に訪れてきた。

それはもう、いやらしいみたいに、どこもかしこもその当時はミュージカルだらけであった。私たちはそのころ映画を見にゆくのではなく、音楽を聞き、踊りを見にゆくのであった。

ぜんぜん音のしなかつた画面から「音」がとび出したシヨックというものは、スタンダート・フィルム・サイズがパターとひろまったあのシネラマへのびっくりりではない。

昨日まで説明者によって日本語をしゃべっていた御ひいきスタアで「ハロオ・エヴリイボディ」とチューインガムをしがんだような外国語を発したのだからゾーツとまった。ああ、あの人はアメリカ人だったのかと気が遠くなった。

全発声超特作太陽篇などとおどしをかけるだけでなく今や音楽館と化したる映画館は、まずパラマウント短篇発声「君が代」(でずぞ)で全員起立し、これが終るや、ニューヨーク有名歌手短篇「グドバイ・マイ・ラヴ」について有名バレエ・ダンサーのアグネス・デミルの「バレエ・スクール」これが終ると、アイルランド民謡集の短篇。さて本篇にはいり「レッツ・ゴ・ネイティヴ」(邦題「極楽島満員」)ジャック・オーキー、ジャネット・マゴドナルド、ケイ・フランシス、ユージン・パレットその他の主演。「これぞ日本最初の純粹ミュージカル・ファースの訪れ」とプログラムに解説入り。さらにとりは純粹「オペレッタ」を称する「ラヴ・パレード」エルンスト・ルビッチ監督、モオリス・シュヴァリエ、ジャネット・マゴドナルド、リリアン・ロス主演、と言う次第。

そのプログラムは二十頁にわたり、それら音楽映画の主題歌が日本語と英語の両方で紹介され、オペレッタの何たるか、ミュージカルの何たるかが解説されていた。しかもその小パンフレット型のプログラムを入場者はもれなくただで貰えたのであった。私などは心臓をドキつかせながら「もう一部ちょうだい」と蚊の鳴くような声を出し手を出した。

アメリカからわざわざ「君が代」をフィルムに入れてきたというのも傑作だが、その昭和五年ごろの音楽映画

ミュージカル映画の洪水を貴方がたにどう想像させようかこれはまことに困難だ。

ガートルード・ローレンス（「王様と私」の主役女優）の上演中急死。とたんに相手役のブリンナーがこれにより名を高めた。というのはローレンスに代わる女優が貧弱だったため）の「春宵巴里合戦」、ヘレン・モーガンの「喝采」、アイリン・ボルドニの「巴里」、エディ・キャンターの「猿飛カンター」、アル・ジョルソンの「シンギング・フル」、マルクス兄弟の「ココナッツ」、ハル・スケリーの「踊る人生」、ポール・ホワイトマンの「キング・オブ・ジャズ」など続々。

かくてジャズは新聞地から六甲から須磨明石にはびこり、須磨の海水浴場には手持ちポータブルの蓄音器から「フュー」「チチナ」「ヴァレンシヤ」のメロディが砂丘に流れ、砂上即席チャールストン・コンテスト。その一等にアイスクリーム五人ぶんが当たるといふそのころの

### 青春裸像

さらに「ジョー・ポート」「リオ・リタ」「フツビー」などのジグフェルド大当りのミュージカルの映画化。ミシッピのオールマン・リヴァに聞き惚れた昨夜、そして今宵は「リオ・リタ」のリオ・グランデの恋の歌「リーオーリーターアー、セーニョリーリーター、ヒアリイズ、マイ・ハート」お私私ここで声を張りあげ歌ってもあげたいそのハリイ・ティアニー作曲のメロディの美しさよ！ 純白のシヨールを振りながら三十数名のメキシコ女の踊る中央に黒レース黒衣服に白花一輪を頭上に飾った女が、カスターネットを高らかに打ち鳴らし現われたあの「リオ・リタ」ムード。これが今から三十六年まえ。

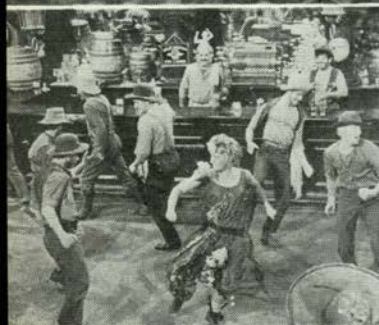
ああ思えば懐しく、こちらはまた年をとったもんである。

——タイトル写真は「リオ・リタ」のビッグ・ダニエルス——

（映画評論家）



写央上は「マイ・フェア・レディ」のオーディ・ヘップバーンとレックス・ハリスン



左は「不沈のモーリー・ブラウン」  
右は「ウエストサイド物語」

